

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成28年1月～3月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成28年4月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 28 年 1 月～3 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、くろかわ、加美、
遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 147 企業

2. 調査対象期間

平成 28 年 1 月～3 月期を対象として、調査時点は平成 28 年 3 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 2
建 設 業	2 5
小 売 業	4 4
サービス業	4 6
合 計	1 4 7

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成28年1月～3月期)の調査において、産業全体の業況D I(前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より6.3ポイントの改善で△24.7(前期△31.0)となった。産業別にみると、製造業は△16.6(前期△15.6)と△1.0ポイント悪化、建設業が△12.0(前期△4.0)と△8.0ポイント悪化、小売業では△35.7(前期△51.1)と15.4ポイント改善、サービス業では△26.6(前期△37.8)と11.2ポイント改善した。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額)D Iでは、全体として今期は前期(H27年10月～12月期)に比べて改善した。産業別にみると、製造業は△6.4(前期△33.4)で27.0ポイント改善、建設業は△20.0(前期△8.0)で△12.0ポイント悪化したが、小売業で△43.2(前期△61.4)と18.2ポイント改善、サービス業でも△19.5(前期△41.3)と21.8ポイント改善した。

② 採算の状況

採算D Iについては、全体として今期は前期に比べて改善した。産業別にみると製造業で△25.8(前期△12.9)と△12.9ポイント悪化、建設業は△12.0(前期△20.0)で8.0ポイント改善、小売業は△40.9(前期△47.8)で6.9ポイント改善、サービス業では△26.6(前期△44.4)と17.8ポイント改善した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業では12.9%で前期比△10.4ポイント減少、建設業では16.0%で前期比△4.0ポイント減少、小売業では9.5%と前期比7.1ポイント増加、サービス業では6.8%で前期比△2.5ポイント減少した。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

H28年3月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（DI）は前期(12月調査)と比較して製造業が4ポイント悪化のマイナス4、非製造業は1ポイント悪化のプラス4だった。先行きはいずれも悪化を見込んでいる」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）DIは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では製造業、小売業、サービス業で改善したが、建設業では悪化となった。

今期の宮城の全国、東北との売上額DI比較では、製造業で全国、東北以上、建設業・小売業で全国以下、東北以上、サービス業では全国、東北以上であった。

表-1 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・DI)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 13.8	△ 18.6	△ 23.1	△ 22.1	△ 33.4	△ 6.4
建 設 業	△ 11.7	△ 17.4	△ 17.7	△ 27.6	△ 8.0	△ 20.0
小 売 業	△ 35.4	△ 41.8	△ 46.0	△ 44.3	△ 61.4	△ 43.2
サービ業	△ 20.6	△ 24.0	△ 33.4	△ 31.3	△ 41.3	△ 19.5

② 採 算

宮城の今期の採算DIは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では、建設業、小売業、サービス業で改善したが、製造業では悪化した。今期の宮城の全国、東北との採算DI比較では、宮城は製造業で全国以下、東北以上、建設業では全国・東北以上、小売業では全国以下、東北以上、サービス業では全国、東北以上であった。

表-2 採算の状況 (前年同期比・DI)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 19.2	△ 21.7	△ 25.3	△ 33.7	△ 12.9	△ 25.8
建 設 業	△ 18.2	△ 18.3	△ 19.5	△ 20.2	△ 20.0	△ 12.0
小 売 業	△ 33.1	△ 38.0	△ 38.6	△ 42.3	△ 47.8	△ 40.9
サービ業	△ 24.7	△ 27.3	△ 36.1	△ 35.1	△ 44.4	△ 26.6

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（28年4月～6月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業で△9.7ポイント悪化、建設業で△4.0ポイント悪化、小売業で△0.9ポイント悪化、サービス業で△19.7ポイントの悪化と全て悪化見通しとなった。採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で5.8ポイントの改善、建設業で△4.6ポイントの悪化、小売業で1.4ポイントの改善、サービス業では△3.0ポイントの悪化見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では、売上は全国の改善見通しに対し宮城は悪化方向の見通し、採算では全国・宮城共に改善見通しとなった。建設業では、売上は全国・宮城共に悪化見通し、採算でも全国・宮城共に悪化見通しとなった。小売業では、全国が売上、採算ともに改善見通しに対し宮城は売り上げが若干の悪化、採算が若干の改善となった。サービス業では、売上は全国が若干の改善に対し宮城は悪化見通し、採算でも全国が改善、宮城が悪化見通しとなった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 18.6	△ 16.0	△ 6.4	△ 16.1
建設業	△ 17.4	△ 24.0	△ 20.0	△ 24.0
小売業	△ 41.8	△ 38.2	△ 43.2	△ 44.1
サービス業	△ 24.0	△ 23.8	△ 19.5	△ 39.2

表－4 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 21.7	△ 17.7	△ 25.8	△ 20.0
建設業	△ 18.3	△ 20.0	△ 12.0	△ 16.6
小売業	△ 38.0	△ 34.2	△ 40.9	△ 39.5
サービス業	△ 27.3	△ 24.8	△ 26.6	△ 29.6

2. 県下産業別の景況

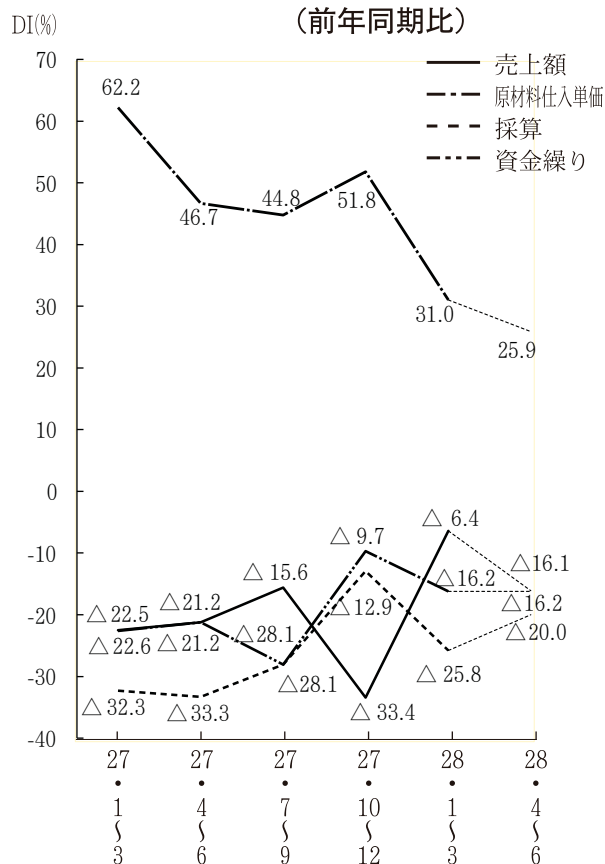
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△6.4（前期△33.4）となり27.0ポイント前期より改善し、採算D Iは今期△25.8（前期△12.9）で△12.9ポイントの悪化、資金繰りD Iも今期△16.2（前期△9.7）で△6.5ポイントの悪化となった。

原材料仕入単価は今期31.0（前期51.8）と20.8ポイント減少し、今期は下落基調に転じている。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



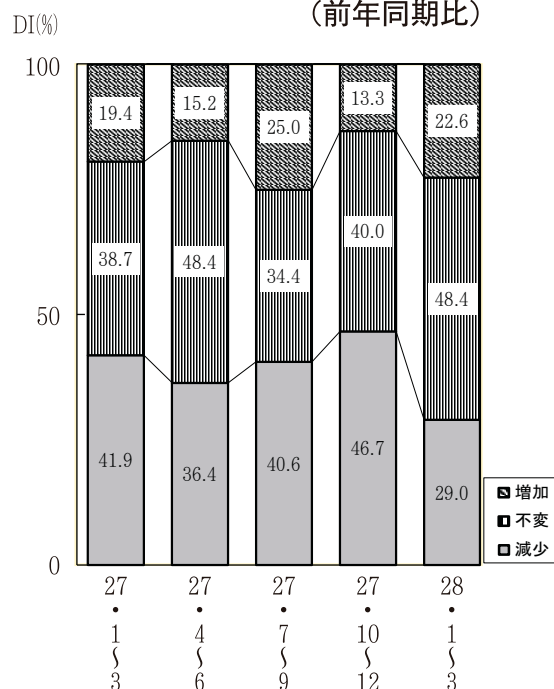
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加」と回答した企業は、全体の22.6%（前期13.3%）と9.3ポイント増加し、「減少」と回答した企業は29.0%（前期46.7%）と△17.7ポイント減少した。

結果として売上（加工）額D Iは△6.4（前期△33.4）となり前期比27.0ポイント改善した。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

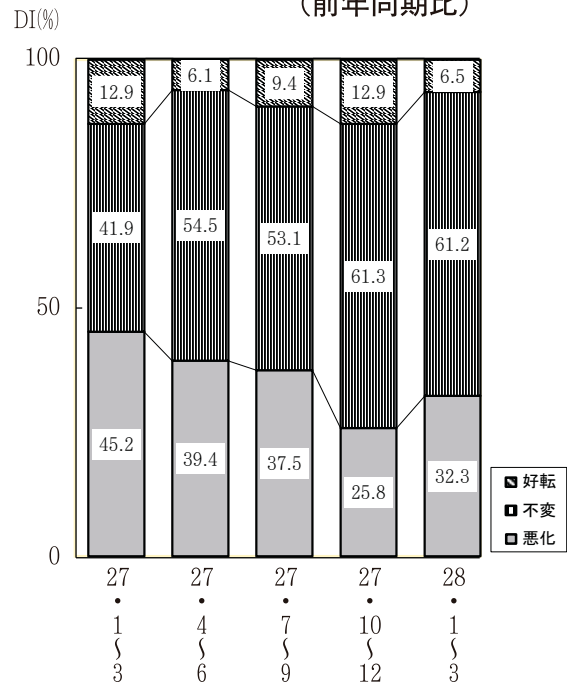


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 6.5% (前期 12.9%) で△6.4 ポイント減少し、「悪化」と回答した企業は 32.3% (前期 25.8%) で 6.5 ポイント増加した。

その結果、採算 D I は△25.8 (前期△12.9) で前期比△12.9 ポイント悪化した。

図 1 - 3 採算の状況 (前年同期比)



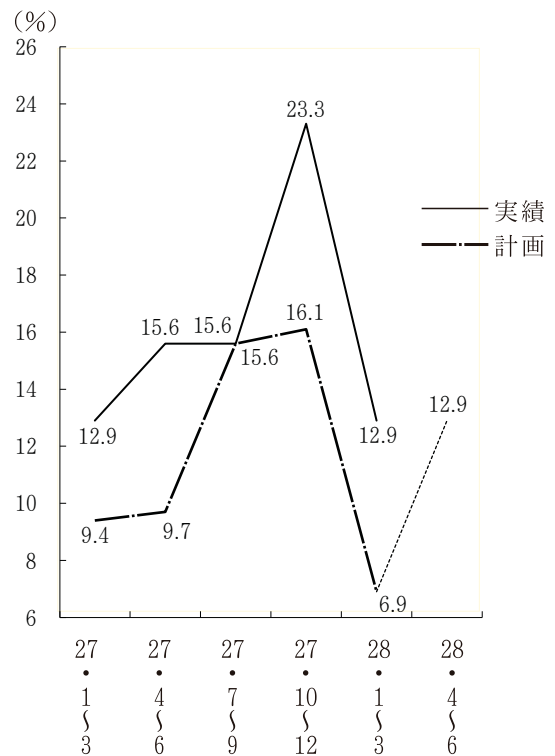
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施 (実績) 企業割合は、全体の 12.9% (前期 23.3%) で前期と比べ△10.4 ポイント減少した。

その設備内容は、生産設備、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 12.9% で、その設備内容は生産設備となっている。

図 1 - 4 設備投資の状況

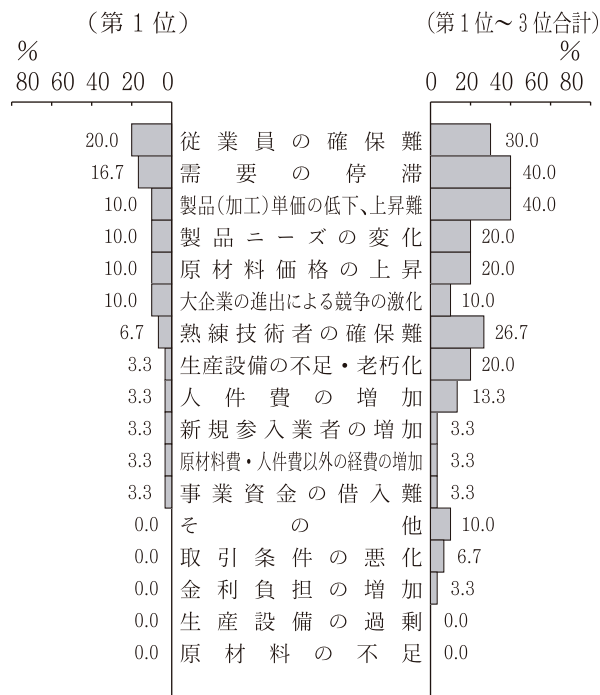


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「従業員の確保難」の20.0%で、次いで「需要の停滞」が16.7%、「製品(加工)単価の低下、上昇難」、
「製品ニーズの変化」、「原材料価格の上昇」、
「大企業の進出による競争の激化」が10.0%
で続いた。

重要度第1位から第3位合計では「需要の停滞」、「製品(加工)単価の低下、上昇難」が最上位で40.0%(複数回答計、以下同じ)、
次いで「従業員の確保難」が30.0%で続いた。

図1-5 経営上の問題点



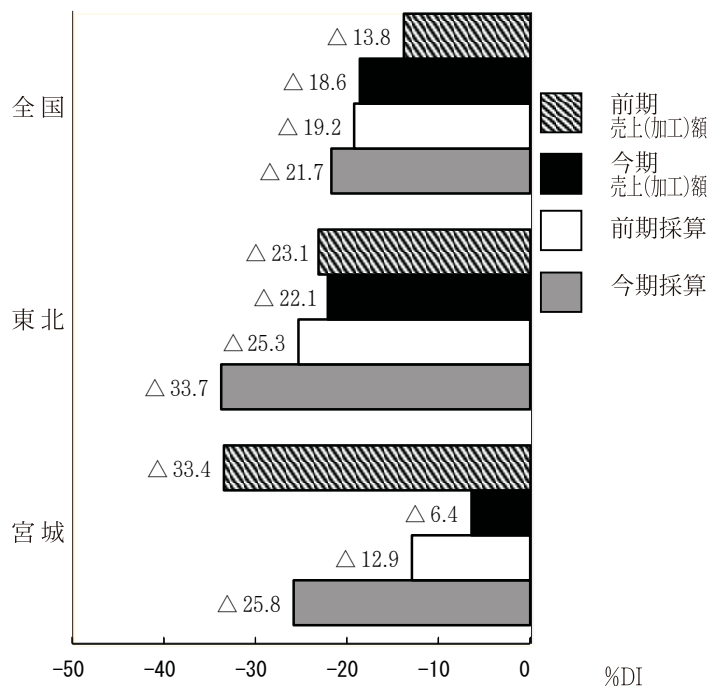
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上(加工)額DIでは全国で悪化、東北で若干の改善、宮城で大幅な改善となった。

採算DIの比較では、全区分で悪化した。その悪化度は宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業者からは「取引先を新規開拓した効果で収支トントンでやる事ができた」(縫製業)や、「海外からの安価品が流通し、価格のダウン要求が厳しい」(金属加工業)とのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較(前年同期比)



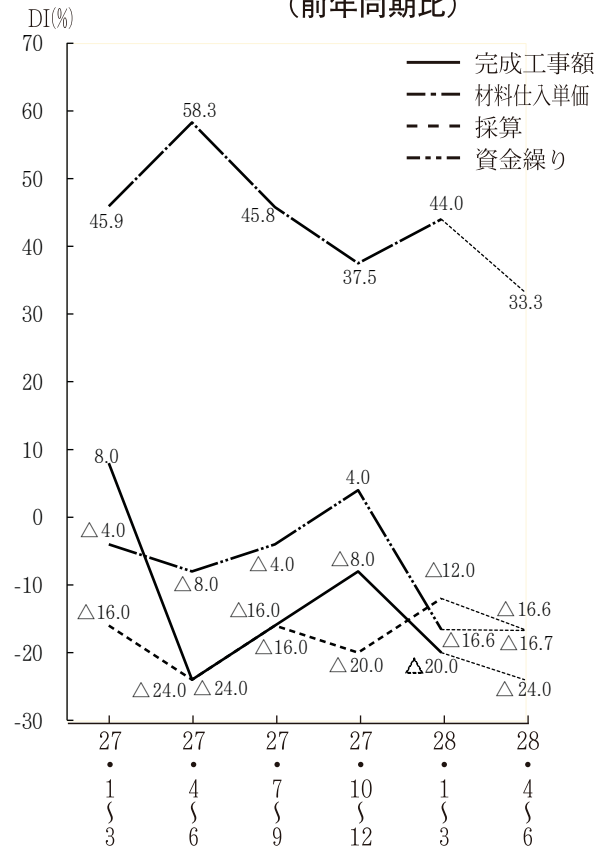
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△20.0（前期△8.0）と前期より△12.0ポイント悪化、採算D Iは今期△12.0（前期△20.0）で8.0ポイント改善、資金繰りD Iは今期△16.6（前期4.0）と△20.6ポイント悪化した。

材料仕入単価D Iは今期44.0（前期37.5）と前期より6.5ポイント上昇、悪化した。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



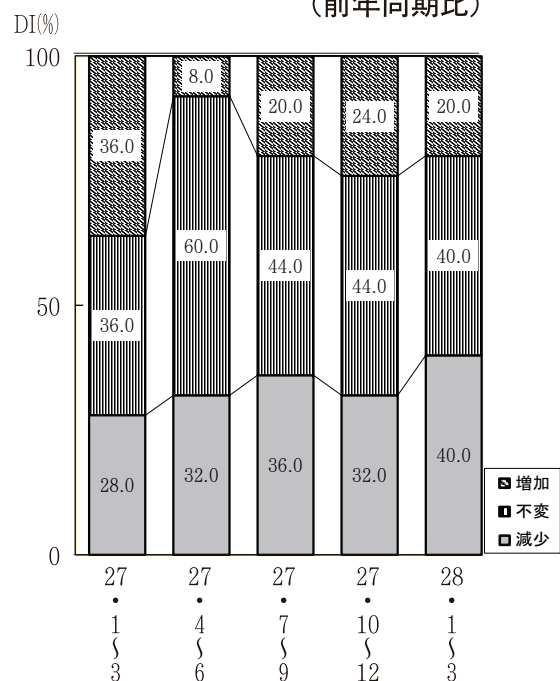
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の20.0%（前期24.0%）で△4.0ポイント減少、「減少」と回答した企業は40.0%（前期32.0%）と8.0ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△20.0（前期△8.0）と△12.0ポイント前期より悪化した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

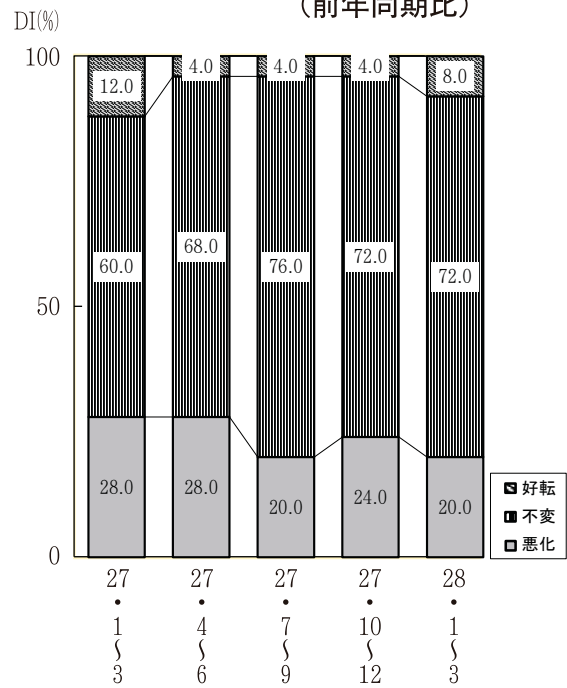


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 8.0% (前期 4.0%) で 4.0 ポイント増加、「悪化」と回答した企業は全体の 20.0% (前期 24.0%) で△ 4.0 ポイント減少した。

その結果、採算 D I は△12.0 (前期△20.0) で前期より 8.0 ポイント改善した。

図 2 - 3 採算の状況 (前年同期比)



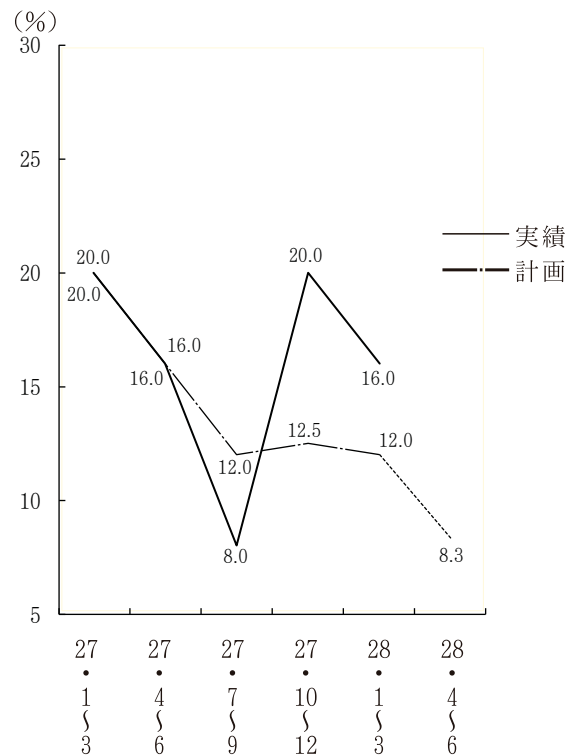
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、全体の 16.0% (前期 20.0%) で前期より△ 4.0 ポイント減少した。

その設備内容は建物、建設機械、車両・運搬具であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の 8.3% で、その設備内容は建物、建設機械、付帯施設、福利厚生施設となっている。

図 2 - 4 設備投資の状況

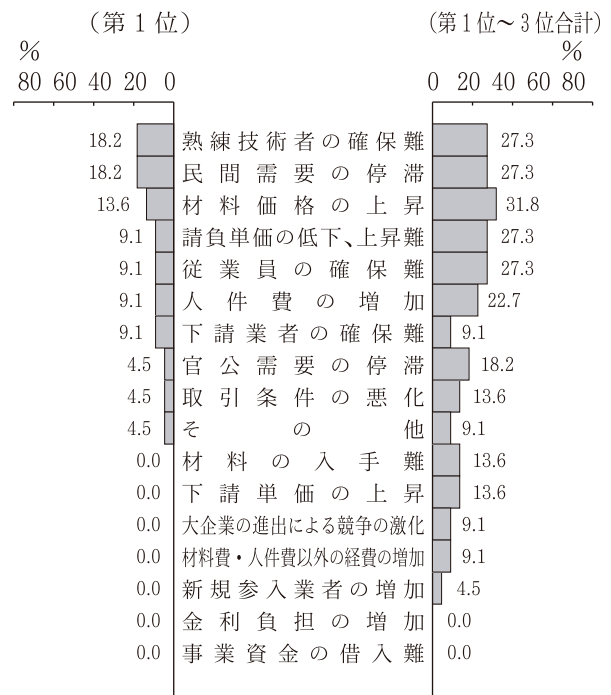


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「熟練技術者の確保難」及び「民間需要の停滞」の18.2%で、次いで「材料価格の上昇」が13.6%であった。

重要度第1位から第3位合計では、最上位が「材料価格の上昇」で31.8%(複数回答計、以下同じ)、次いで「熟練技術者の確保難」、「民間需要の停滞」、「請負単価の低下、上昇難」、「従業員の確保難」が同率27.3%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県

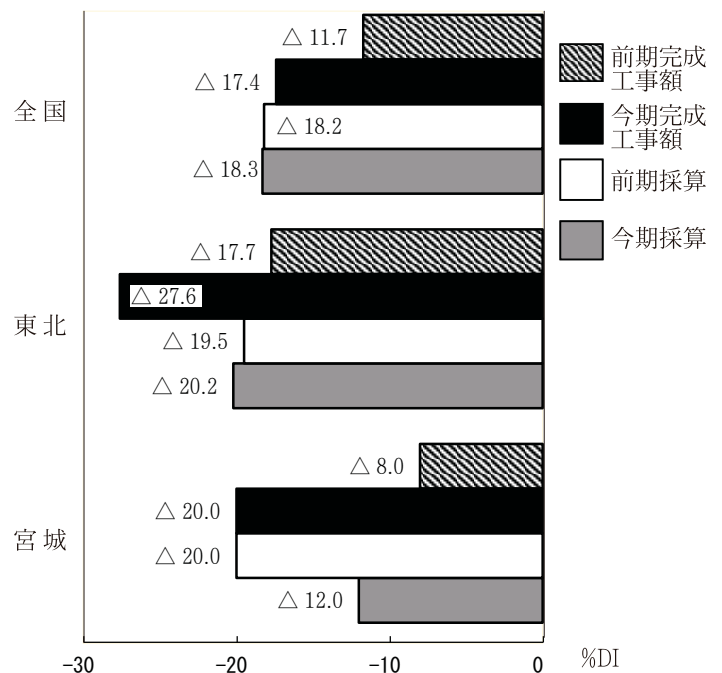
の景況比較

今期と前期との比較では売上額DIは、全国区分で悪化した。悪化度は宮城、東北、全国の順であった。

採算DIの比較では、全国でほぼ横ばい、東北で若干の悪化、宮城で改善となった。

本県回答事業所からは「災害公営住宅関係の仕事が増加し、売り上げが上昇」とのコメントの一方、「震災需要の受注が一段落した感があり今後の売り上げが不透明」とのコメントも寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較(前年同期比)



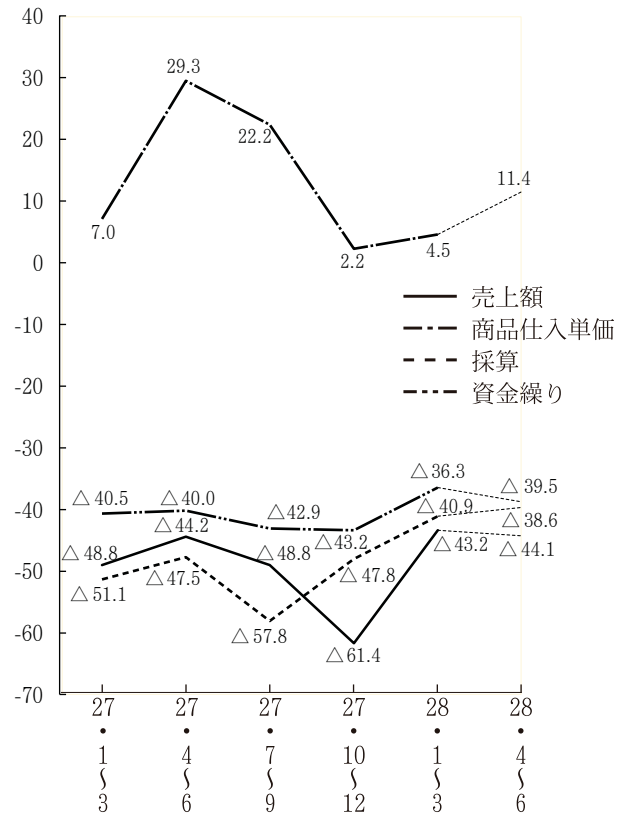
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△43.2（前期△61.4）と18.2ポイント改善し、採算D Iは今期△40.9（前期△47.8）で6.9ポイント改善、資金繰りD Iは今期△36.3（前期△43.2）で6.9ポイント改善した。

商品仕入単価D Iは今期4.5（前期2.2）となり2.3ポイント上昇した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



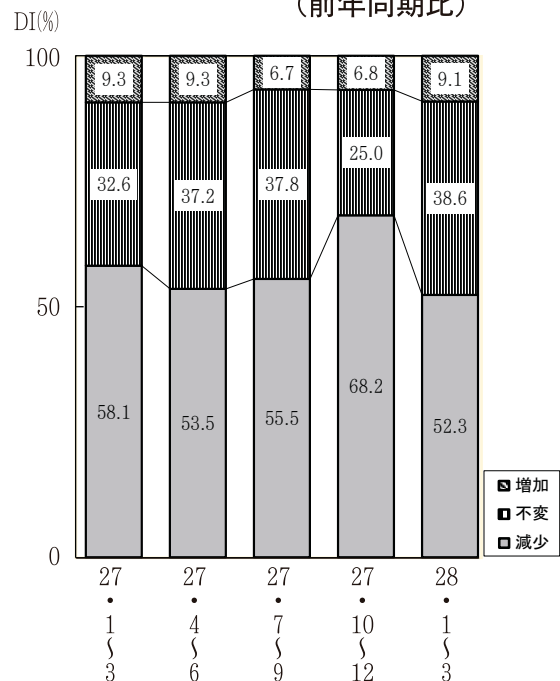
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の9.1%（前期6.8%）と2.3ポイント増加、「減少」の回答は、今期は全体の52.3%（前期68.2%）で△15.9ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは今期△43.2（前期△61.4）と18.2ポイント前期より改善した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

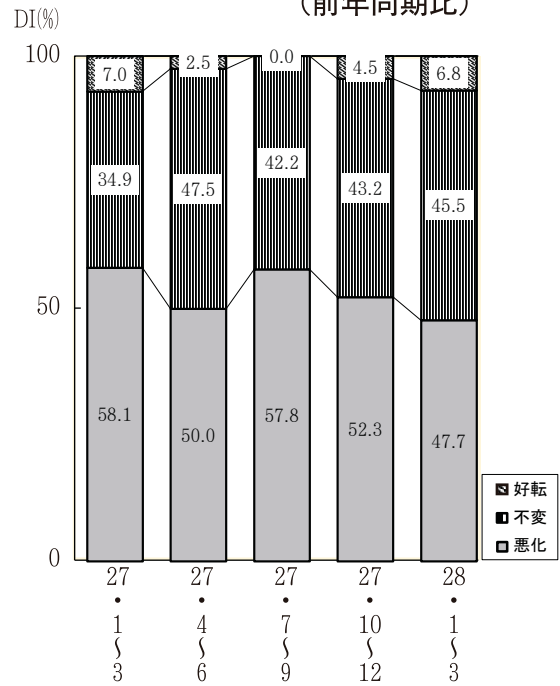


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の6.8%（前期4.5%）と2.3ポイント増加、「悪化」の回答は、今期は全体の47.7%（前期52.3%）で△4.6ポイント減少した。

その結果、採算DIは、今期△40.9（前期△47.8）で前期より6.9ポイント改善した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



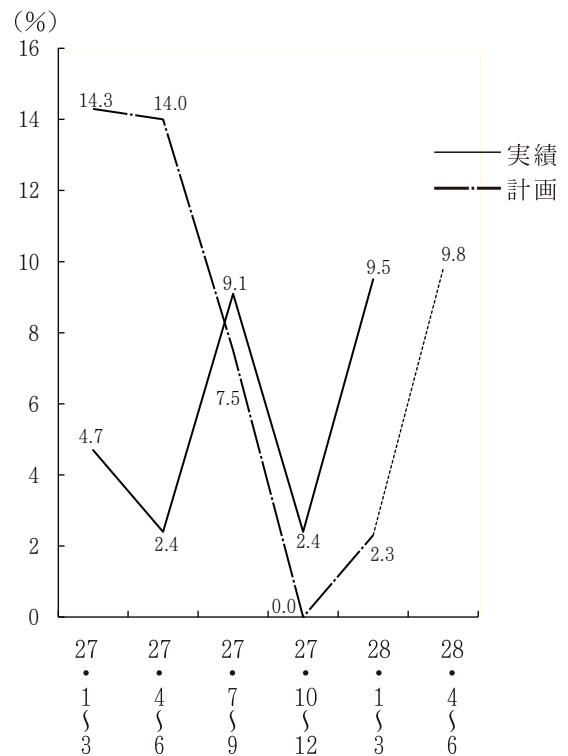
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の9.5%（前期2.4%）で、前期より7.1ポイント増加した。

その設備内容は店舗、車両・運搬具、付帯施設、福利厚生施設であった。

来期に設備計画している企業は全体の9.8%で、その設備内容は店舗、販売設備、車両・運搬具、OA機器となっている。

図3-4 設備投資の状況

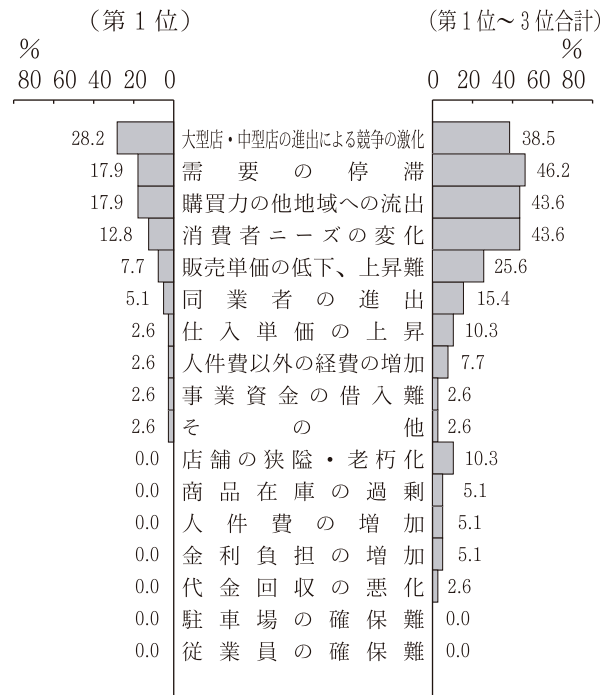


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が28.2%で、「需要の停滞」、「購買力の他地域への流出」が同率17.9%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(46.2%(複数回答合計、以下同じ))が最上位で、「購買力の他地域への流出」、「消費者ニーズの変化」が同率43.6%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



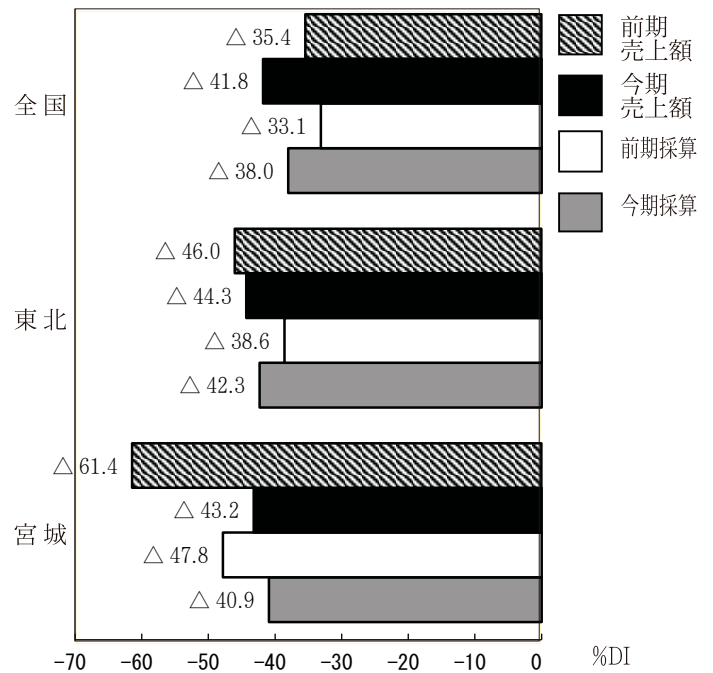
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では、売上DIは全国で悪化、東北で若干の改善、宮城で改善となった。

採算DIでは、全国、東北で悪化、宮城で改善となった。悪化度は全国、東北の順であった。

本県回答事業所から「飲食店との取引が増えたので今後売上額が増加してくるのではないかと期待」(酒類販売)、「お客様の買う単価は前年よりも高く、その分仕入れ額も上昇」(衣料品店)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



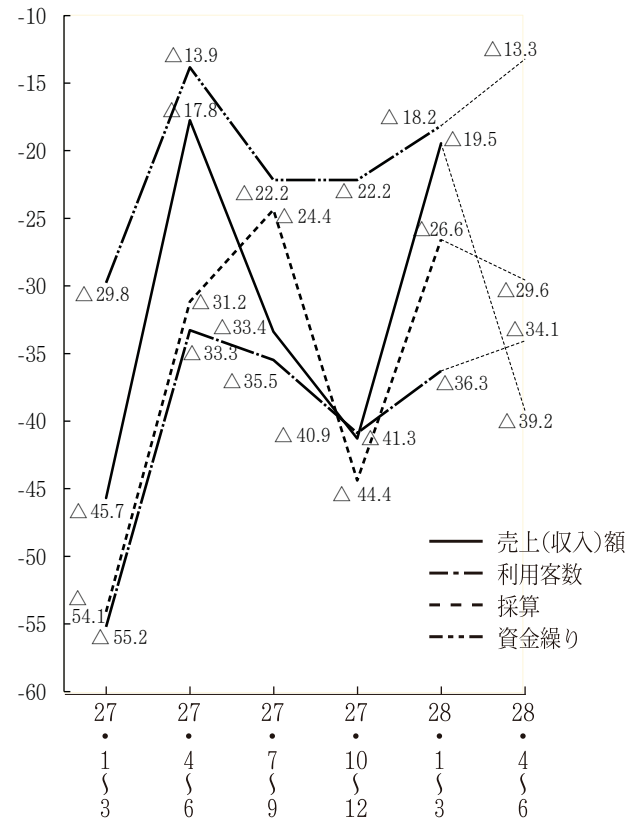
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらし

売上（収入）額D Iは今期△19.5（前期△41.3）で21.8ポイント改善、採算D Iは今期△26.6（前期△44.4）で17.8ポイント改善、資金繰りD Iは今期△18.2（前期△22.2）と4.0ポイント改善した。

利用客数D Iは今期△36.3（前期△40.9）で4.6ポイント上昇した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



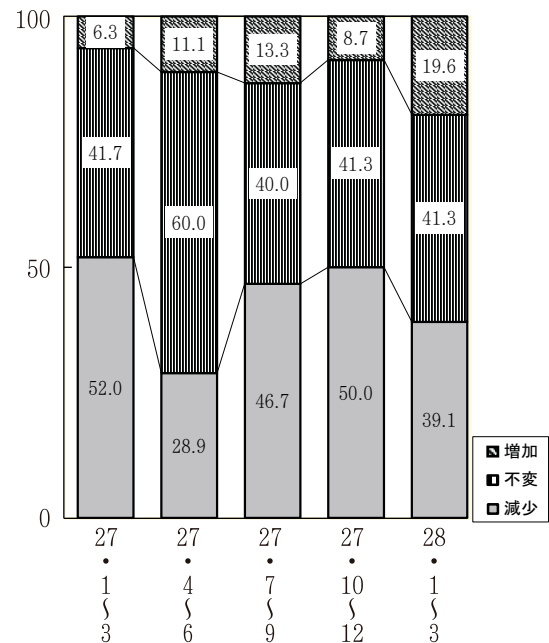
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の19.6%（前期8.7%）で10.9ポイント増加、「減少」の回答は今39.1%（前期50.0%）で△10.9ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額D Iは今期△19.5（前期△41.3）で前期より21.8ポイント上昇した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

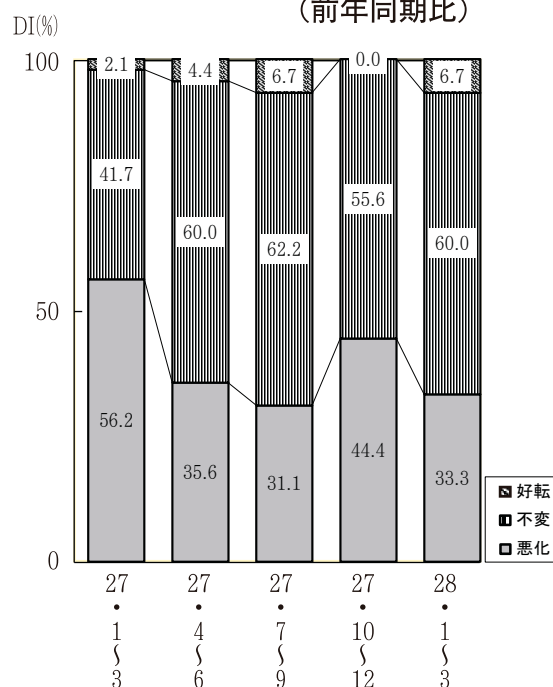


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の6.7%（前期0.0%）で前期比6.7ポイント増加、「悪化」と回答した企業は今期33.3%（前期44.4%）と△11.1ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△26.6（前期△44.4）で前期より17.8ポイント改善した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



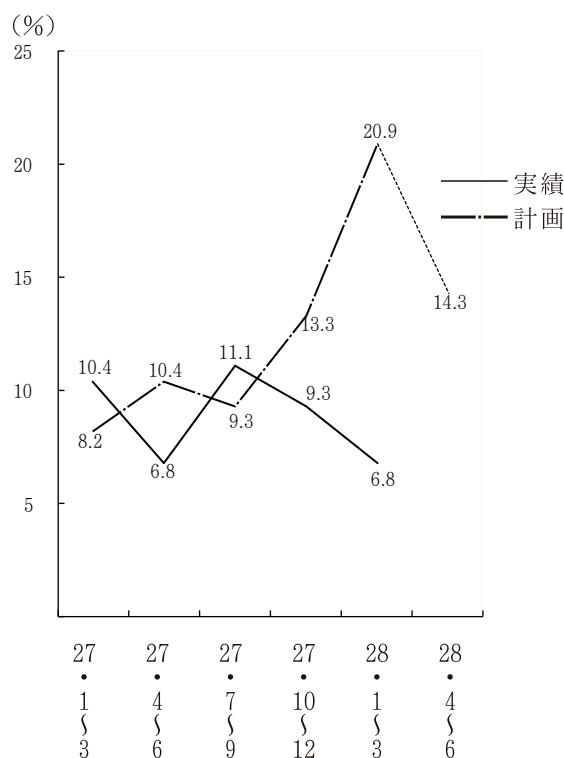
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は、今期は全体の6.8%（前期9.3%）で前期より△2.5ポイント減少した。

その設備内容は、車両・運搬具、付帯施設、福利厚生施設であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の14.3%であり、その内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、福利厚生施設、その他となっている。

図4-4 設備投資の状況

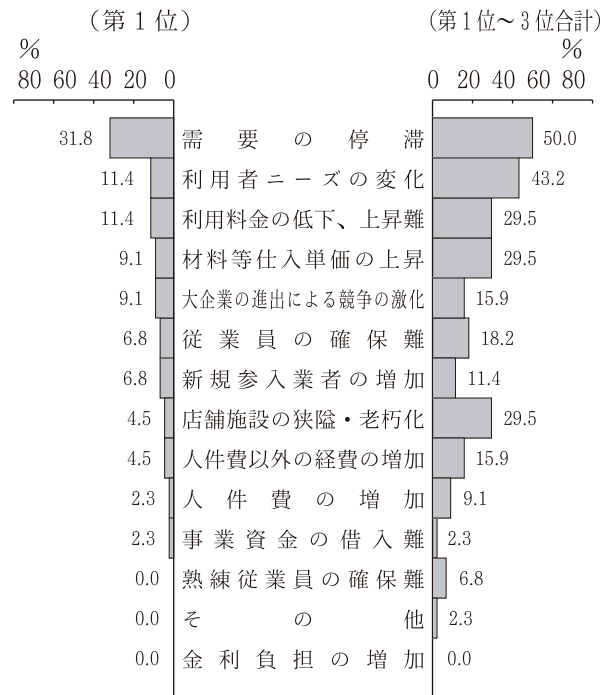


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(31.8%)で、「利用者ニーズの変化」、「利用料金の低下、上昇難」が同率11.4%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも、「需要の停滞」(50.0%(複数回答合計、以下同じ))が最上位で、「利用者ニーズの変化」が43.2%、「利用料金の低下、上昇難」、「材料等仕入単価の上昇」、「店舗施設の狭隘・老朽化」が同率29.5%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期と今期の比較において、売上DIは、全国で悪化、東北で若干の改善、宮城で大幅な改善となった。

採算DIでも全国で悪化、東北で若干の改善、宮城で改善となった。

本県回答事業所からは「人口規模の中で競合業者が多く、個人自営業者は日増しに淘汰されつつある」(ランドリー業)とのコメントの一方、「格安理容、美容業が進出している。そのため技術及びサービス向上等を目指し努力している」(理容業)とのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

